

平成22年度第6回 産業応用部門論文委員会主査会議 議事録（案）

1. 日時：2月8日 火曜日 13:30-15:00

2. 場所：電気学会事務局内会議室

3. 出席者(敬称略)：D1:3名、D2:1名、D3:1名、ゲストエディタ、他:3名

大石（編修長、長岡技術科学大学）、村上（編修長補佐、慶応大学）、藤崎（D1主査、豊田工業大学）、木村（D1副主査、大阪工業大学）、野口（D1次年度副主査、静岡大学）、森本（D2副主査、東海大学）、高瀬（D3主査、摂南大学）、山崎（千葉工業大学・特集論文ゲストエディタ）、近藤（千葉大学・特集論文ゲストエディタ）、藤田（東京工業大学）

欠席：寺田（D2主査、徳島大学）、亀井（D2次年度副主査）、米谷（D3副主査、三菱電機）、村井（D3次年度副主査）、

4. 提出資料

22-6-0 議事次第（木村）

22-6-1 前回議事録（案）（木村）

22-6-2 電子査読システムの運用状況（村上）

22-6-3 「回転機技術」特集号について（山崎）

22-6-4 「特集号の企画について」（村上）

22-6-5 新 電子投稿・査読システムについて（村上）

22-6-6 D1 論文賞候補について（藤崎）

22-6-7 D3 論文賞候補について（高瀬）

22-6-8 「論文委員会幹事の役割について」（木村）

5. 議事

5.1 前回議事録の確認（資料22-6-1）

・特に異議無く、承認された。

・査読フローの記述について、修正を加えた。修正版を編修長から配布する。

5.2 電子査読システム運用状況（資料22-6-2）

・D 部門誌への投稿数 D1:123件、D2:109件、D3:56件、増加した。

・3件ずつ投稿有り、フルペーパーのみ新しい査読システムに載せる。

・英文論文誌の投稿数 12件、4件、13件の投稿となっている。D2が減少傾向。

・論文賞の選定について、掲載論文数に応じてD1,D2,D3に表彰者数を割り当てる。

5.3 特集号状況確認（資料22-6-3）

- ・千葉工業大学・山崎先生より資料 2 2 - 6 - 3 に基づき、「回転機技術」特集号について説明があった。
- ・10 件投稿有り。1 件の掲載が決定している。
- ・査読の進捗が少々遅れ気味なのが心配。
- ・8 月末が最終。7 月末に締め切りをおいた方が良い。
- ・「モーショントラッキング」特集の現状について村上先生から代理で説明があった。
- ・20 件、採録になっており、4 月号に特集号として発行予定。

5.4 特集号の企画について（資料 2 2 - 6 - 4）

- ・村上先生から代理で説明があった。
- ・沖縄高専の姉崎先生からの提案である。
- ・「沖縄形 産業創成」特集号を企画したい。2012 年 12 月を目指して提案したい、との打診があった。
- ・協同研究委員会を中心として企画する。
- ・内容は「組み込みソフトウェア」関連になる。幹事団より、査読者の策定に困難が予想される、との指摘があった。
- ・協同研究委員会以外の査読者候補を 10 名以上、提案してもらう。
- ・一般公募が成り立つように、企画書を提出してもらう。委員会内のみにならないように注意する。

5.5 新 電子投稿・査読システムについて（資料 2 2 - 6 - 5）

- ・村上先生から資料 2 2 - 6 - 5 に基づき、システムの新機能について、説明があった。
- ・黄色い背景の部分が新機能である。
- ・催促メール（自動メールも含めて）を送ったかどうか、日付も含めて残っているとよい。今後、改善を検討する。
- ・英語表記については用語の統一などを図って欲しい、との要望が出された。

5.6 論文賞候補について（資料 2 2 - 6 - 6, 7）

- ・D1 論文賞候補について藤崎主査から、資料 2 2 - 6 - 6 に基づき推薦方法について説明があった。2 件を候補として選出した。
- 1 件に絞る場合について、この後の論文委員会で順位付けする。
- ・論文賞候補になるかどうか、のコメントを考慮した方が良いのではないか（藤田）。今後、事務局からエクセルファイルにデータを出してもらう。

- ・ D3 論文賞候補について高瀬主査から、資料 2 2 - 6 - 7 に基づき推薦方法について説明があった。誤って過去 3 年分の論文を対象にしてしまった。結果として、候補が絞りきれなかった
ので、主査が最終決定した。
- ・ D2 は寺田主査が欠席のため、後ほど 2 名を推薦してもらおう。
- ・ 2 月末までに推薦書を出して欲しい、と村上先生から要望があった。

5.7 その他として、木村 D1 副主査より「論文委員会幹事の役割について」資料 2 2 - 6 - 8 に
基づき説明があった。査読システムを運用するに当たって、幹事がトラブルを回避するための
参考資料である。いわゆるマニュアルではないが、有用性が認められるので、今後、内容と位
置づけを検討していくこととなった。

5.8 次回主査会 : 3 月 29 日(火)午前 1 1 : 0 0 ~ 1 2 : 3 0 電気学会・会議室